

アメリカで育てる

永住や長期滞在の子どもの教育のために

INFOE（海外子女教育情報センター）

松本輝彦

第 18 回

現地校での学習（2）

-- エッセイの大切さ --

「なぜ、現地校では、こんな勉強をさせるの？」保護者からの、ご自身の日本の学校での経験を元にした、質問です。

「現地校での学習」のコラムでは、日本とアメリカの学校教育の目的・方法を、具体的に説明してみます。

2 回目は「アメリカの学校教育でのエッセイ・ライティングの重要性」について、述べてみます。

エッセイとは？

アメリカの学校での Essay Writing には様々な目的・形式の文章が含まれます。しかし、小学校から高校までの学習で中心となるのは「persuasive（説得力のある）essay」です。私は、日本人の子ども達にそのタイプのエッセイの特徴を明確にするために、「自分の意見を読み手に伝えて、説得する文章」と説明しています。

「essay」の日本語訳は「随筆」が一般的です。しかし、日本語の「随筆」が示す「味わい深く情緒的な不定形の文章」ではなく、現地校で学ぶエッセイは「自分の主張をはっきり伝える、形式の明確な文章」のことです。日米の差が大きく現れています。

エッセイ学習の目的

アメリカの公立学校の教育の大目的は、「民主主義を守る子どもを育てる」ことです。国民が自分の考えを自由に表現できることが民主主義の命です。そのための「自分の意見を、相手にしっかり伝える」スキルは重要です。その「自分の意見をまとめ、相手に伝える文章表現のトレーニングがエッセイの学習」です。そのトレーニングが、小学校高学年から中学・高校へと繰り返し続けられます。

また、アメリカの大学教育では、自分の研究や考察の結果・内容を、他の学生・研究者に論理的に伝えるためのエッセイ（ペーパー、論文）のトレーニングが続けられます。自分の研究内容を他の研究者に理解してもらって、初めて「研究」として認められるのです。自分の趣味や自己満足のためだけの作業は、大学レベルの研究としては評価されません。

「相手に、自分の考えを伝え、理解してもらって、行動に移してもらう」、そんなスキルが非常に大切にされる社会が、アメリカなのです。

五段落エッセイ

小学校・中学校レベルのエッセイの基本型は、五段落エッセイ（five paragraph essay）です。

このエッセイの基本型は、文字通り、五つの段落で構成されています。小学校の教室では、お肉が3つ挟んであるハンバーガーの絵のポスターなどで、その構成を理解させています。簡単にその型式・構成をみてみましょう。

第一段落：導入と主張・意見をまとめた段落。自分の意見・主張を述べるのがエッセイですから、それをひとつにまとめた文（thesis statement, THS）がエッセイで最も重要です。

第二～第四段落：その主張・意見を説明する理由をまとめた文（topic sentence, TS）と、その理由をサポート・説明するいくつかの文（support sentence, SS）で構成される3つの段落。各段落の理由（TS）が主張・意見のサポートとなっているか、その理由をSSがしっかり説明できているか、が評価の基準となります。

第五段落：最後に、第一段落の主張・意見（THS）を繰り返し、強調する段落。

このように、五段落エッセイの型式・ルールがはっきりしているので、子ども達が一度それらを習得すると、エッセイを書くこと自体が大きな負担にならなくなります。（日本の作文を書き始める時の子どもが「どう書けばいいのか」と悩む苦勞を考えれば、よく理解できます。）また、その型式の簡単さ故に、比較的限られた英語力でもエッセイを書き上げることが出来ます。

五段落エッセイの基本形は、書くだけではなく、スピーチやプレゼンテーションなど「話す」こと、さらには、型式を発展させてレポートにも応用されます。